

# 第121期 中間報告書

2012年4月1日 ▶▶▶ 2012年9月30日

## CONTENTS

企業ミッション等 .....	1
株主の皆様へ .....	2
営業の概況 .....	3
主な研究開発品の状況 .....	7
財務諸表 .....	8
株式の状況 .....	9
会社の概要 .....	10



鳥居薬品株式会社

証券コード 4551

## 企業ミッション

鳥居薬品は世界に通用する医薬品を通じて、  
お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、  
人々の健康に貢献します。

お客様、株主、社会、社員に対する責任とは、高品質の事業活動によって生み出される資金を循環／  
拡大することを通じて、お客様、株主、社会、社員の四者に対する責任をバランス良く果たし、満足の  
総和を高めていくことであると考えます。

### 4Sモデル

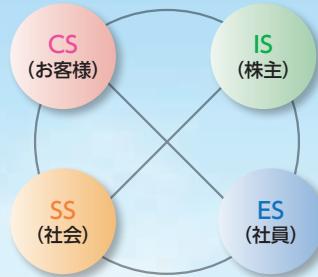
#### CS：お客様に対する責任

より良い薬、正しい情報を医療関係者を通じて患者様に提供することにより、人々のQOL (Quality Of Life) 向上に貢献するように努めます。

#### SS：社会に対する責任

高度な倫理観を保持し、社会要請に応じた事業活動を通じて、より良き企業市民となるように努めます。

CS : Customer Satisfaction    IS : Investor Satisfaction  
SS : Social Satisfaction        ES : Employee Satisfaction



#### IS：株主に対する責任

適時適切に会社情報を開示するとともに、適正な利潤の還元と企業価値の増大を図るように努めます。

#### ES：社員に対する責任

個人々人を尊重し、成長の機会を均等に与え、公正な評価に基づく処遇を推進することにより、働きがいを実感できるように努めます。

## 目指すべき企業像

信頼される国内市場のメジャープレイヤーを目指します。

## 行動宣言

私たちは、お客様の信頼を高めるために、  
柔軟に考え、連携し、機敏に行動します。

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第121期第2四半期累計期間の経営成績につきましては、本年4月に実施された薬価改定の影響を受ける中、事業成長の牽引役として掲げる「腎・透析領域」におきましては「レミッチカプセル」および「ケイキサレートドライシロップ」が、「HIV領域」におきましては「ツルバダ配合錠」が伸長したことなどにより順調に推移いたしました。

研究開発につきましては、「アレルゲン領域」におきまして、本年7月にTO-203（ダニを抗原とする喘息およびアレルギー性鼻炎を対象とした免疫療法薬）の国内第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験を開始いたしました。9月には、TO-194SL（スギ花粉症に対する舌下免疫療法薬）の国内第Ⅲ相臨床試験に関して良好な速報結果を得たことから、本年度中の製造販売承認申請を目指し取り組んでおります。

また、「HIV領域」におきましても、8月に、日本たばこ産業株式会社が本年度中に日本国内における製造販売承認申請を予定しております、新規抗HIV薬「JTK-303 (elvitegravir) を含む配合錠」について、日本国内における独占販売契約を締結いたしました。

中期経営計画「PLAN鳥居2012」の最終年度である第121期も残り4ヶ月となりましたが、目標の達成に向け、引き続き全力で取り組んでまいります。

今後とも、さらなる企業価値向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2012年12月

代表取締役社長

松尾 紀彦



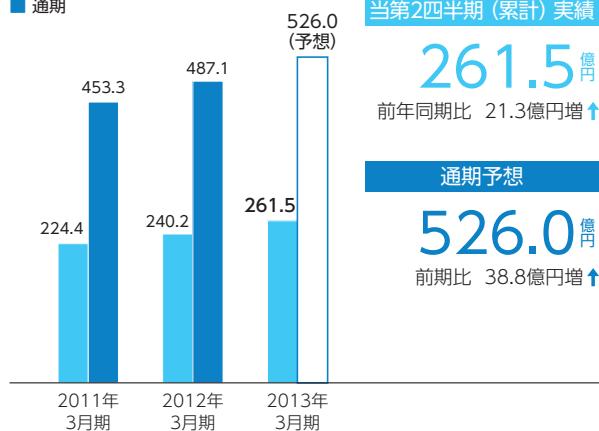
# 営業の概況

## 決算ハイライト

### 売上高

(億円)

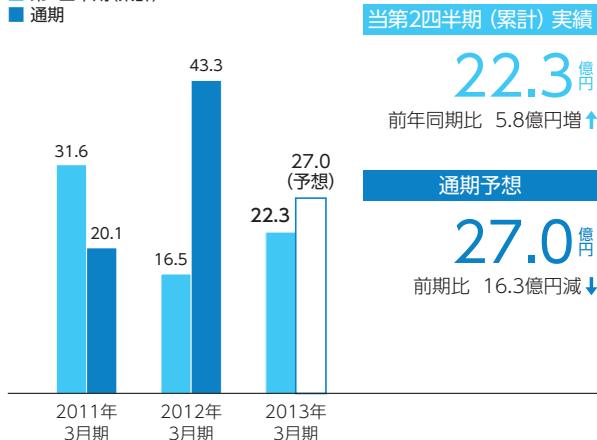
■ 第2四半期(累計)  
■ 通期



### 経常利益

(億円)

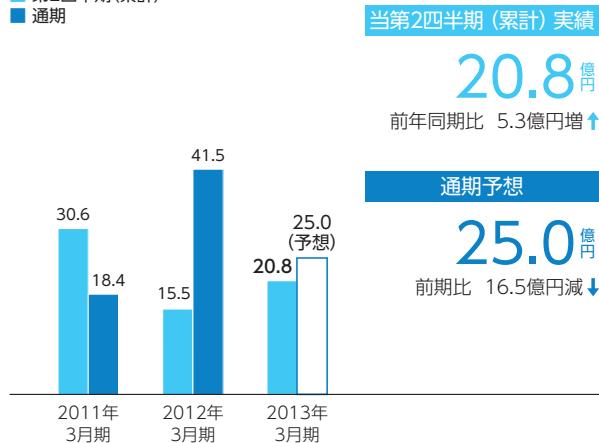
■ 第2四半期(累計)  
■ 通期



### 営業利益

(億円)

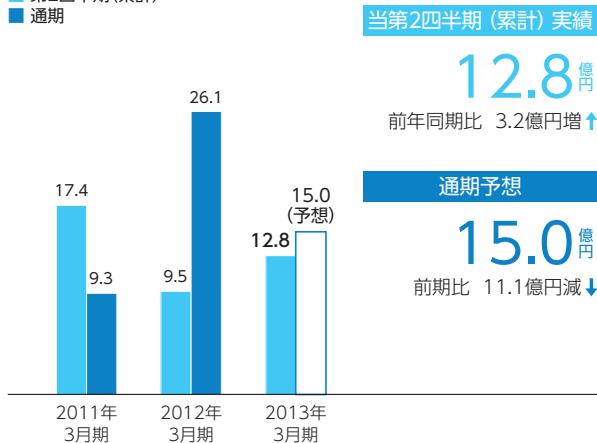
■ 第2四半期(累計)  
■ 通期



### 四半期(当期)純利益

(億円)

■ 第2四半期(累計)  
■ 通期



## 経営成績・通期の業績予想

当第2四半期累計期間の売上高は、本年4月に実施された薬価改定の影響を受ける中、26,158百万円と前年同期に比べ2,132百万円（8.9%）増加しました。

主要な製品・商品の販売状況につきましては、「レミッチカプセル（血液透析患者における経口そう痒症改善剤）」は5,896百万円と前年同期に比べ1,276百万円（27.6%）増加したほか、「ツルバダ配合錠（抗HIV薬）」は5,671百万円と前年同期に比べ946百万円（20.0%）増加しました。

費用面におきましては、売上原価は11,202百万円と前年同期に比べ1,244百万円（12.5%）増加し、販売費及び一般管理費は研究開発費が増加したこと等により12,868百万円と前年同期に比べ357百万円（2.9%）増加しました。

以上の結果、営業利益は2,087百万円と前年同期に比べ531百万円（34.2%）増加し、経常利益は2,239百万円と前年同期に比べ587百万円（35.6%）増加しました。四半期純利益につきましては1,283百万円と前年同期に比べ324百万円（33.8%）増加しました。

中間配当金につきましては、1株当たり20円とさせていただきます。

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の

業績を踏まえ、第120期報告書でご報告した予想数値を修正しております。

売上高は、「レミッチカプセル」等の販売状況が計画を上回って推移していることにより、前回予想を上回る見通しとなりました。また、利益面におきましても、売上高の増加により営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回予想を上回る見通しとなりました。

現時点における通期の業績予想数値は、売上高は526億円（対前回予想1.3%増）、営業利益は25億円（対前回予想19.0%増）、経常利益は27億円（対前回予想22.7%増）、当期純利益は15億円（対前回予想25.0%増）を見込んでおります。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり20円を予定しております。

### 一株当たり配当金

（単位：円）

	中間	期末	年間
2013年3月期	20	(予定) 20	(予定) 40
2012年3月期	20	20	40

### 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載しております予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績は、様々な要素により、これらの予想数値とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見通しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。（かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。）

- 薬事法その他の法令または規制の変化
- 副作用の発現
- 製商品の供給停止
- 薬価の改定
- 研究開発の遅延または中止
- 訴訟の提起

# 営業の概況

## ■ 主要製品・商品の売上高

(単位：百万円)

品名	前第2四半期 自 2011年4月 1日 至 2011年9月30日	当第2四半期 自 2012年4月 1日 至 2012年9月30日	対前年同期増減 (率：%)
レミッチカプセル【経口そう痒症改善剤】	4,619	5,896	1,276 (27.6)
ツルバダ配合錠【抗ウイルス化学療法剤 (抗HIV薬)】	4,724	5,671	946 (20.0)
アンテベート【外用副腎皮質ホルモン剤】	3,291	3,403	112 (3.4)
注射用フサン【蛋白分解酵素阻害剤】	2,586	2,241	△344 (△13.3)
ユリノーム錠【尿酸排泄薬 (高尿酸血症治療剤)】	1,648	1,443	△205 (△12.4)

## ■ 主要製品・商品の紹介

### レミッチカプセル

経口そう痒症改善剤



血液透析患者の既存治療抵抗性の痒み（従来の止痒薬では効き目が不十分な痒み）を改善する薬剤です。

### ツルバダ配合錠

抗ウイルス化学療法剤 (抗HIV薬)



HIV逆転写酵素を特異的に阻害することによりHIVの増殖を阻害する薬剤です。

### アンテベート

外用副腎皮質ホルモン剤



アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などの皮膚疾患に対して炎症を抑えることによって症状を改善する薬剤です。

### 注射用フサン

蛋白分解酵素阻害剤



急性膵炎や汎発性血管内血液凝固症を治療する薬剤です。また、血液透析などの血液浄化療法を施行する際に回路内で血液を固まらないようにする薬剤でもあります。

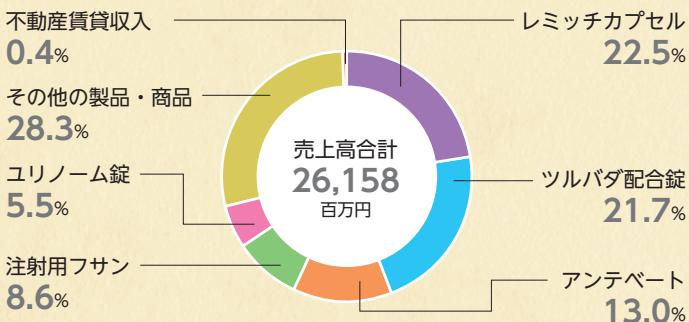
### ユリノーム錠

尿酸排泄薬 (高尿酸血症治療剤)



体内で増えた尿酸を尿中に排泄して高尿酸血症を改善する薬剤です。

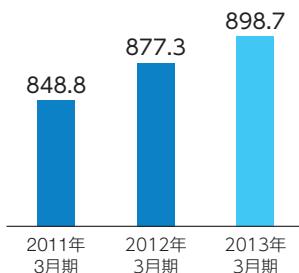
## ■ 当第2四半期（累計）売上高構成比



■ 第2四半期末 ■ 期末

### 総資産

(億円)



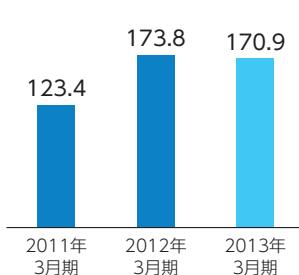
### 純資産

(億円)



### 現金及び現金同等物期末残高

(億円)



## 財政状態

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、89,871百万円と前事業年度末に比べ2,136百万円(2.4%)増加しました。これは、流動資産に含まれる現金及び預金が1,363百万円減少しましたが、新規抗HIV薬に係る販売権の取得等により、投資その他の資産に含まれる長期前払費用が3,455百万円増加したこと等によるものです。

負債につきましては、13,301百万円と前事業年度末に比べ1,399百万円(11.8%)増加しました。これは、未払法人税等が743百万円減少しましたが、主に新規抗HIV薬に係る販売権の取得に伴う契約一時金が未払いのため、流動負債のその他に含まれる未払金が2,584百万円増加したこと等によるものです。

純資産につきましては、76,569百万円と前事業年度末に比べ737百万円(1.0%)増加しました。これは、主に利益剰余金が717百万円増加したことによるものです。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、17,092百万円と前事業年度末に比べ289百万円(1.7%)減少しました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益が2,211百万

円、減価償却費が504百万円、未払金の増加額が2,487百万円となりましたが、長期前払費用の増加額が3,455百万円、法人税等の支払額が1,660百万円となったこと等により157百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は361百万円の収入)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出が22,000百万円、投資有価証券の取得による支出が999百万円、有形固定資産の取得による支出が782百万円となりましたが、定期預金の払戻による収入が23,000百万円、有価証券の売却及び償還による収入が1,300百万円となったこと等により442百万円の収入となりました。(前第2四半期累計期間は1,662百万円の収入)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払額が566百万円となったことにより574百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は578百万円の支出)

# 主な研究開発品の状況

研究開発の状況は、スギ花粉症に対する舌下免疫（減感作）療法薬「TO-194SL」につきまして、本年9月に国内第Ⅲ相臨床試験に関する良好な速報結果を得ております。また、国内第Ⅲ相臨床試験の段階にある高リン血症治療薬「JTT-751」につきましても、本年4月にGBA4-1試験について良好な速報結果を得ており、ともに2012年度中の製造販売承認申請を目指しております。

また、ALK-Abelló A/S（本社：デンマーク 以下ALK社）から導入しましたダニを抗原とするアレルギー疾患を対象とした免疫（減感作）療法薬につきまして、舌下錠「TO-203」については国内第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験、注射剤「TO-204」については国内第Ⅲ相臨床試験を開始しております。

なお、当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は3,686百万円となりました。

領域	開発番号	予定適応症等	剤形等	国内開発段階	備考
腎・透析領域	JTT-751	高リン血症	経口剤	PhaseⅢ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケリックス社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結</li> <li>日本たばこ産業株式会社との共同開発</li> </ul>
アレルギー領域	TO-194SL	スギ花粉症 (免疫（減感作）療法薬)	舌下液	PhaseⅢ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社開発</li> </ul>
	TO-203	ダニを抗原とするアレルギー疾患 (喘息およびアレルギー性鼻炎)	舌下錠	PhaseⅡ/Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結</li> </ul>
	TO-204	(免疫（減感作）療法薬)	注射剤	PhaseⅢ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社開発</li> </ul>

PhaseⅠ（第Ⅰ相臨床試験）：少数の健康な方を対象として、治験薬の安全性を確認します。

PhaseⅡ（第Ⅱ相臨床試験）：少数の患者さんを対象として、治験薬の有効性や安全性とともに、投与する量や方法などを確認します。

PhaseⅢ（第Ⅲ相臨床試験）：多数の患者さんを対象として、治験薬と既存薬またはプラセボ（偽薬）との比較試験により、有効性や安全性を確認します。

## 免疫（減感作）療法とは？

アレルギーの原因抗原を、少量から徐々に増やしながら継続して投与することで、アレルギー反応を減弱させて症状を出にくくさせる治療法です。

日本では現在、注射による治療のみが健康保険の適応となっています。当社では、より利便性の高い舌下投与による免疫（減感作）療法薬の開発に取り組んでいます。



## 財務諸表

## 貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 2012年9月30日現在	前 期 2012年3月31日現在
<b>● 資産の部</b>		
流動資産	69,050	70,352
固定資産	20,820	17,382
有形固定資産	5,762	5,297
無形固定資産	695	704
投資その他の資産	14,363	11,380
資産合計	89,871	87,734
<b>● 負債の部</b>		
流動負債	12,714	11,231
固定負債	587	670
負債合計	13,301	11,902
<b>● 純資産の部</b>		
株主資本	76,342	75,624
資本金	5,190	5,190
資本剰余金	6,416	6,416
利益剰余金	65,594	64,876
自己株式	△ 858	△ 857
評価・換算差額等	227	208
その他有価証券評価差額金	227	208
純資産合計	76,569	75,832
負債純資産合計	89,871	87,734

## 損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 自 2012年4月 1日 至 2012年9月30日	前第2四半期 自 2011年4月 1日 至 2011年9月30日
売上高	26,158	24,025
売上原価	11,202	9,958
売上総利益	14,956	14,067
販売費及び一般管理費	12,868	12,511
営業利益	2,087	1,556
営業外収益	155	97
営業外費用	3	1
経常利益	2,239	1,652
特別利益	—	14
特別損失	28	62
税引前四半期純利益	2,211	1,604
法人税等	927	644
四半期純利益	1,283	959

## キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	当第2四半期 自 2012年4月 1日 至 2012年9月30日	前第2四半期 自 2011年4月 1日 至 2011年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 157	361
投資活動による キャッシュ・フロー	442	1,662
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 574	△ 578
現金及び現金同等物 に係る換算差額	—	△ 22
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 289	1,422
現金及び現金同等物の 期首残高	17,382	12,344
現金及び現金同等物の 四半期末残高	17,092	13,767

# 株式の状況 (2012年9月30日現在)

## 株式数

発行可能株式総数	54,000,000株
発行済株式の総数	28,800,000株

## 株主数

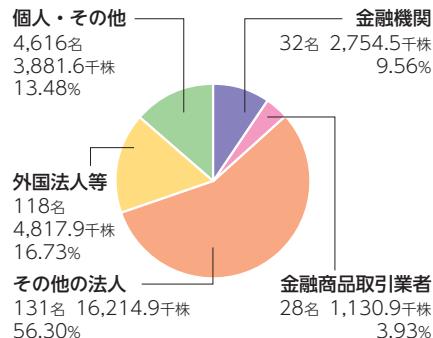
株主数 (単元未満株主を含む)	4,925名
-----------------	--------

## 大株主

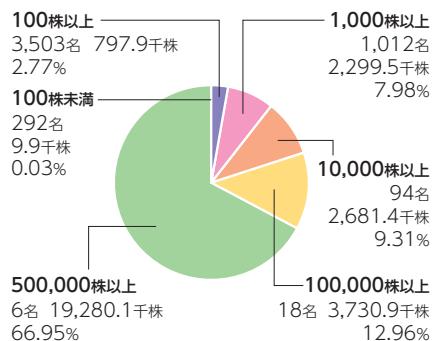
株主名	持株数 千株	持株比率 %
日本たばこ産業株式会社	15,398.8	53.46
立花証券株式会社	1,028.7	3.57
ロイヤルバンクオブカナダトラストカンパニー (ケイマン) リミテッド	934.0	3.24
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカ운ト ジェイピーアールデイ アイエスジー エフイーエイシー	796.7	2.76
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	620.0	2.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	501.9	1.74
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテド ペンション ファンズ セキュリティ レンディング	341.8	1.18
株式会社三井住友銀行	340.8	1.18
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	323.1	1.12
株式会社みずほ銀行	300.0	1.04

(注) 上記の他、当社が保有する自己株式数は498.9千株 (持株比率1.73%) であります。

## 所有者別株式分布状況



## 所有数別株式分布状況



## 株価および株式売買高の推移 (2009年10月～2012年9月)



# 会社の概要 (2012年9月30日現在)

## 会社概要

商号	鳥居薬品株式会社
設立	1921年(大正10年)11月1日
資本金	5,190百万円
主要な事業内容	医薬品の製造・販売
従業員数	984名 (注)従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人数であります。
本社	〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル TEL: 03-3231-6811 (代表)
主な事業所	札幌支店、仙台支店、北関東支店(高崎)、 南関東支店(さいたま)、東京支店、横浜支店、 名古屋支店、京都支店、大阪支店、神戸支店、 高松支店、広島支店、福岡支店、南九州支店(熊本)、 佐倉工場、研究所(佐倉工場内)

## 取締役・監査役および執行役員

代表取締役社長	松尾 紀彦
代表取締役副社長	金谷 宏
専務取締役	籠橋 雄二
常務取締役	田村 明彦
取締役	梅田 高弘
取締役	高木 正一郎
常勤監査役	長 誠次
常勤監査役	矢部 昌平
監査役	鳥養 雅夫
執行役員	林 秀岳
執行役員	相川 由幸
執行役員	古谷 幸友
執行役員	千葉 昌
執行役員	仮屋 ゆう子
執行役員	末吉 廣忠
執行役員	藤原 勝伸
執行役員	太田 尚

(注) 1. 監査役 長 誠次、鳥養 雅夫は社外監査役であります。

(注) 2. 監査役 鳥養 雅夫は東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

## ホームページのご案内

当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」のコンテンツでは、決算短信等のIR情報をご覧いただけます。

<http://www.torii.co.jp/ir/index.html>

トップページ ▶ 株主・投資家の皆様へ



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
公告方法	日本経済新聞に掲載
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および 全国各支店で行っております。

### ▶ 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ▶ 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## アレルギー領域の研究開発の推進

当社は、約50年間に亘り国内唯一のアレルギーメーカーとして、アレルギーの診断から治療までを支えるため、医療現場へアレルギー製品を供給してまいりました。

現在、花粉や食品等115品目の診断薬及び26品目の治療薬を販売しておりますが、現在承認を取得している注射による治療は、投与後の持続的な痛みや、治療導入期の通院が頻回となるなどの理由で、なかなか普及しませんでした。

当社では、これまでの経験を活かし、注射の痛みから解放され、自宅での服用が可能となる舌下免疫療法薬の開発に着手しました。そして、本年9月にはスギ花粉症に対する舌下免疫療法薬（TO-194SL）の国内第Ⅲ相臨床試験に関する良好な速報結果を得ることができ、本年度中の申請を目指しております。

また、ダニを抗原とするアレルギー疾患を対象とした免疫療法薬についても開発を進めており、“当社ならではの”の製品を世の中へ提供し、アレルギーで苦しむ患者様のQOL（Quality of life）の向上に尽力してまいります。

※免疫（減感作）療法及び研究開発の詳細につきましてはP.7をご覧ください。

